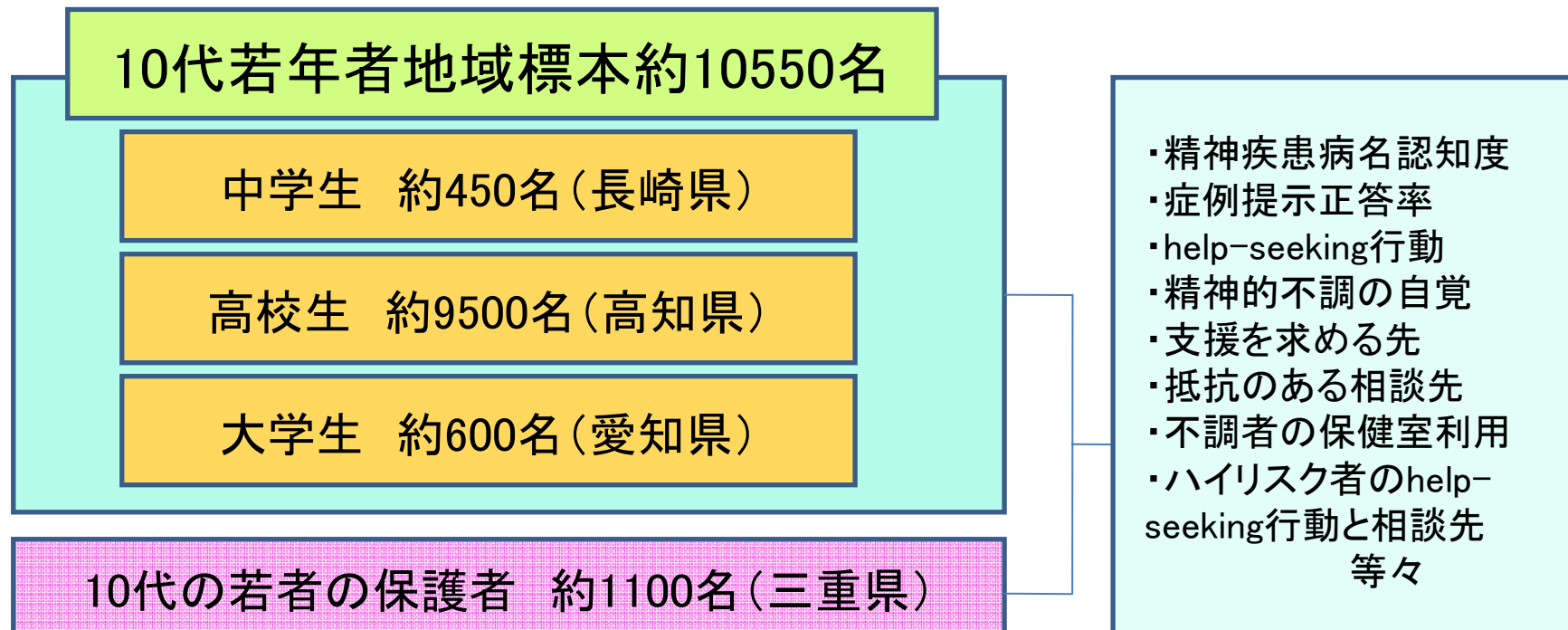


若者を対象とした精神疾患病名認知度等の調査

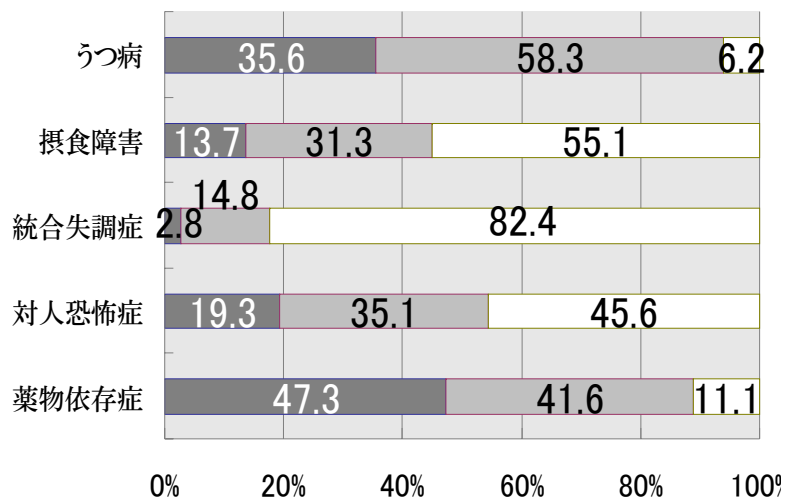
～思春期・青年期精神病理疫学研究3万人調査サンプルの一部～
(平成21年3月末時点 中間報告)



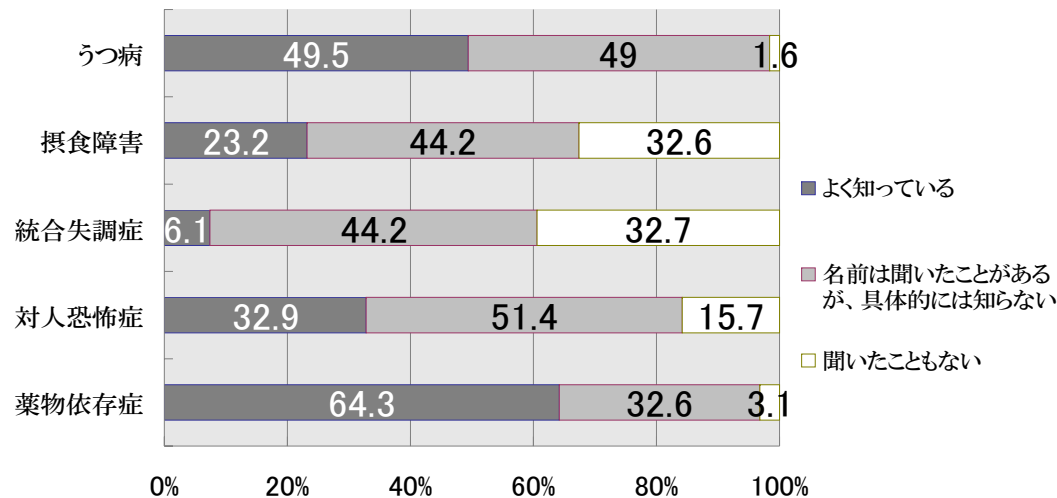
平成20年度厚生労働科学研究こころの健康科学研究事業
「思春期精神病理の疫学と早期介入方策に関する研究」
(研究代表者:岡崎祐士)研究分担者:西田淳志(東京都精神医学総合研究所)

病名認知度調査

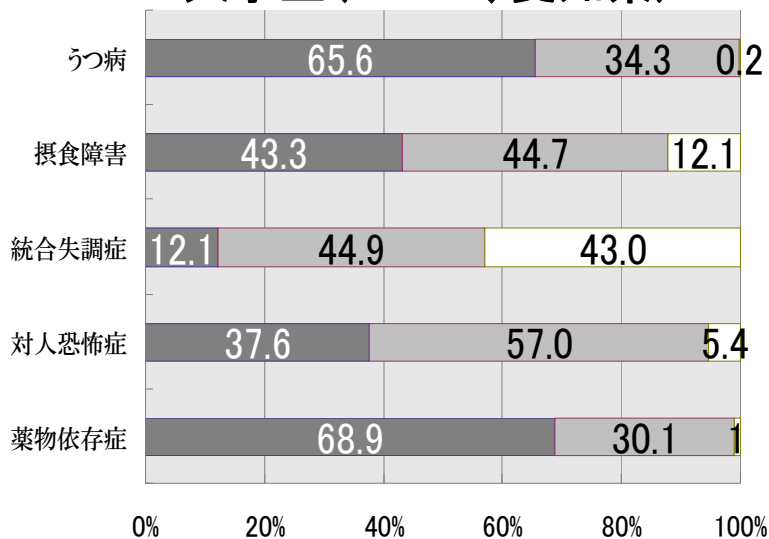
中学生 (N=450、長崎県)



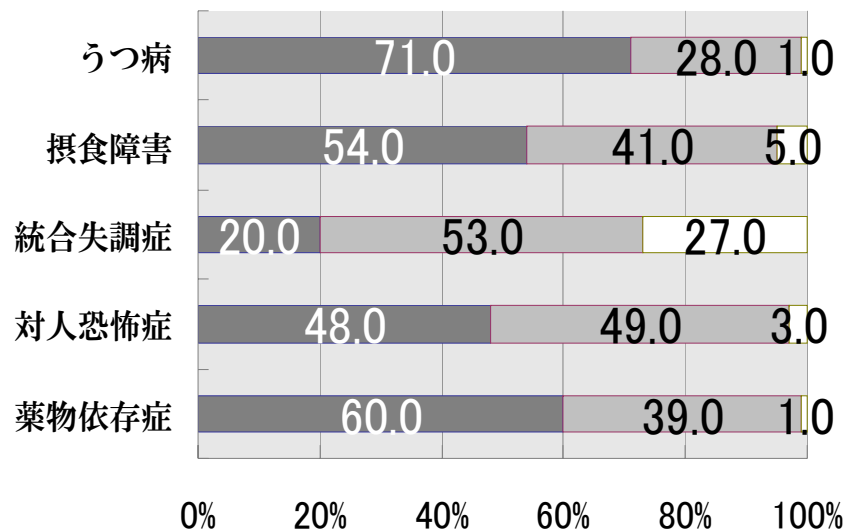
高校生 (N=9566、高知県)



大学生 (N=586、愛知県)

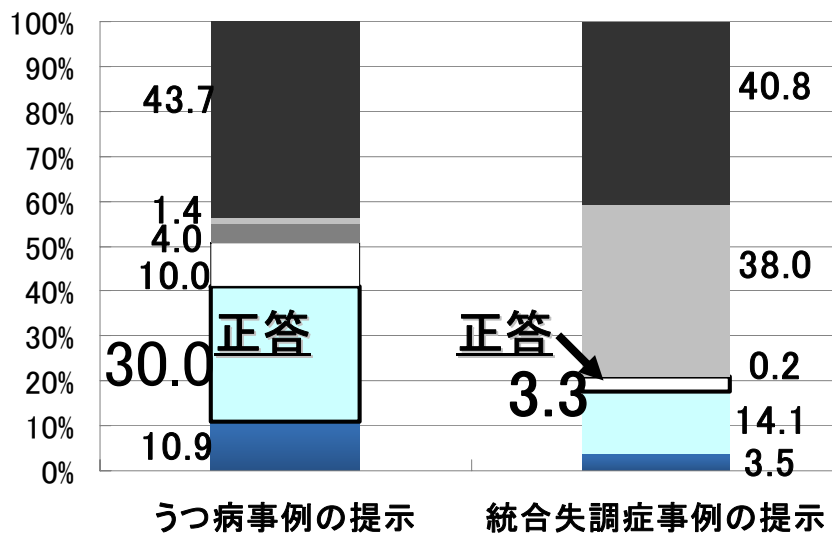


小・中学生保護者 (N=1174、三重県)

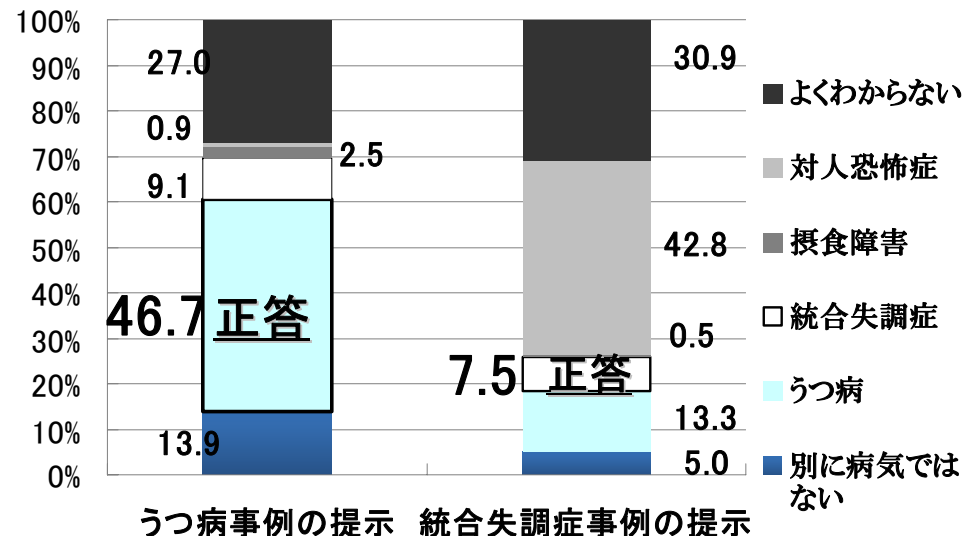


うつ病・統合失調症の症例提示に対する病名正答率

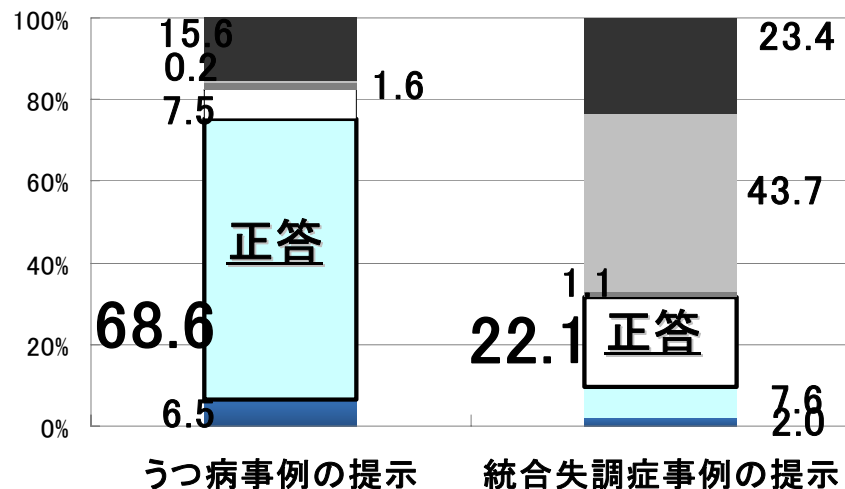
中学生 (N=450、長崎県)



高校生 (N=9566、高知県)

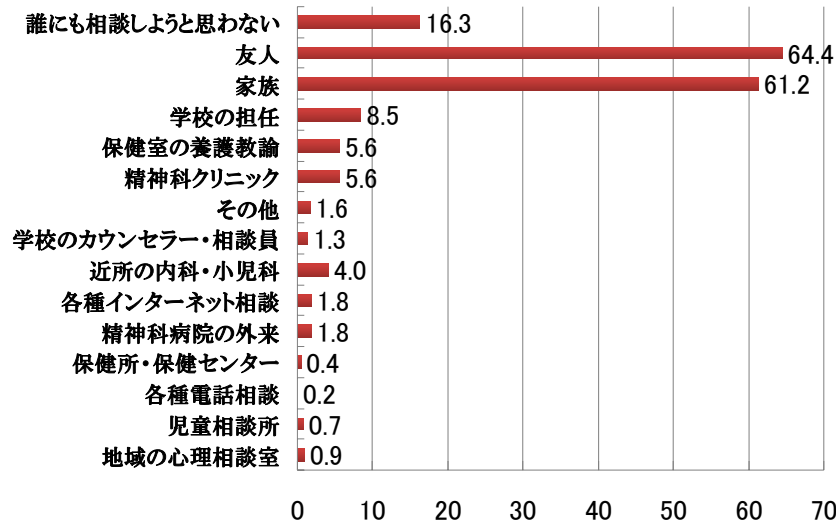


大学生 (N=586、愛知県)

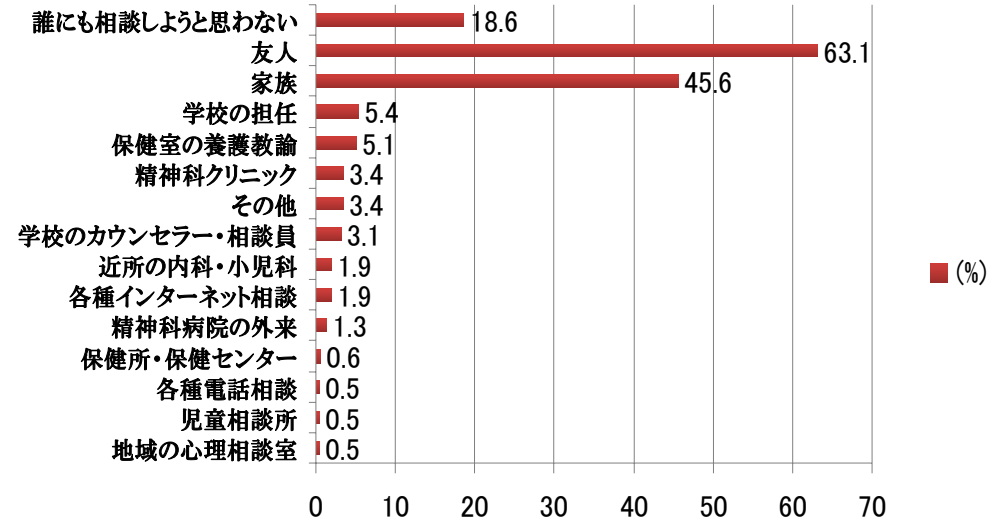


精神的不調のために困った場合、最初に相談しようと思う 相談相手や相談機関はありますか？

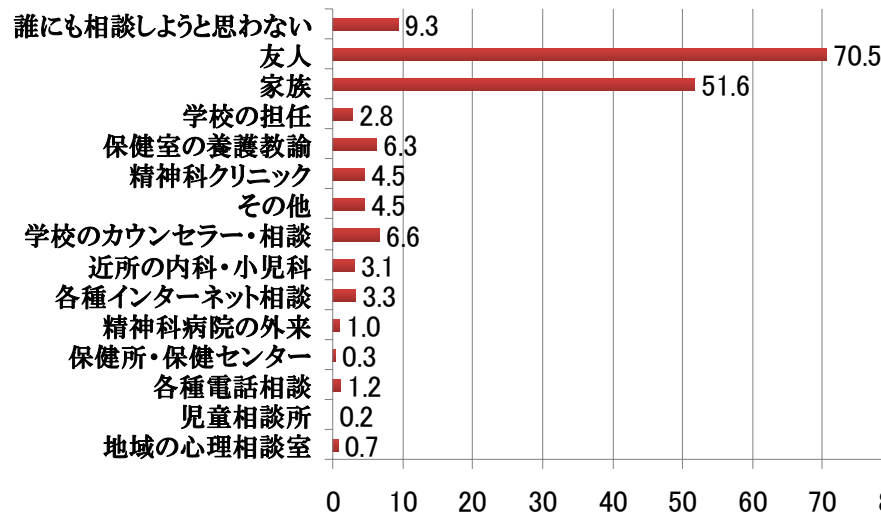
中学生 (N=450、長崎県)



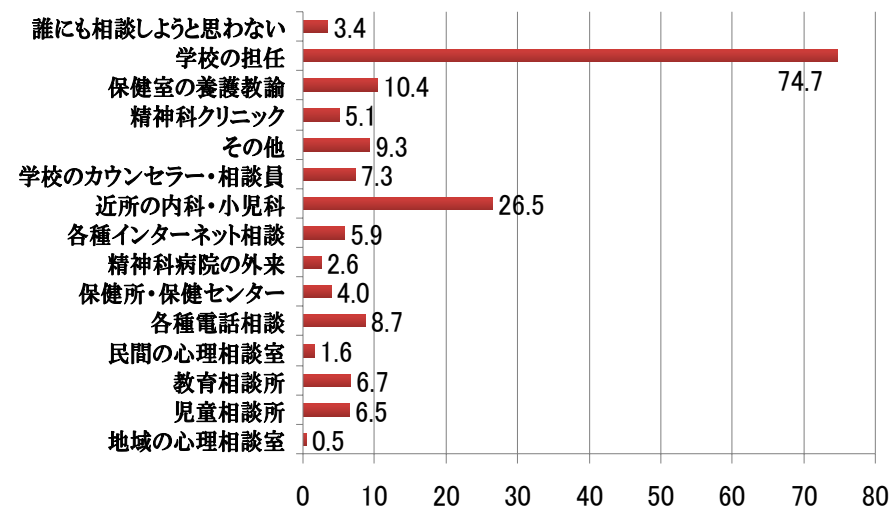
高校生 (N=9566、高知県)



大学生 (N=586、愛知県)

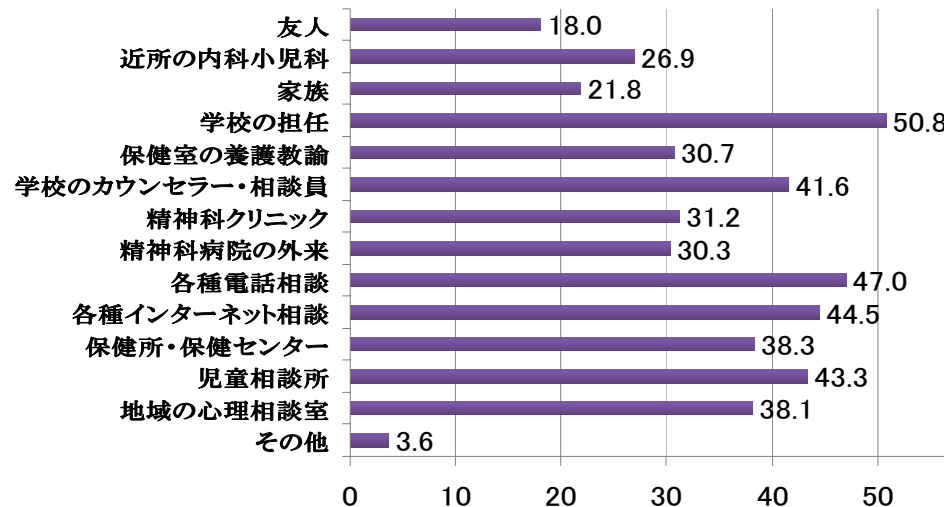


小・中学生保護者 (N=645、三重県)

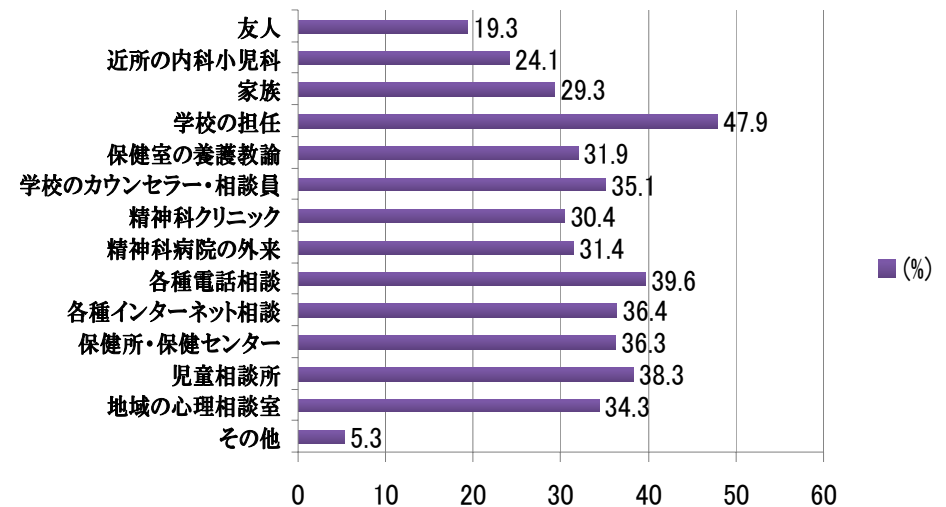


精神的不調のために困った場合、相談しにくい、または、相談先として抵抗のある相談相手や機関はありますか？

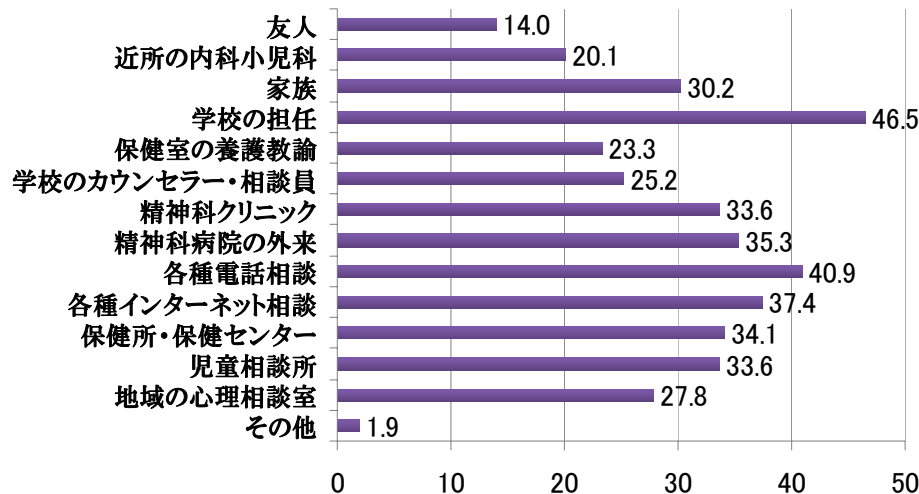
中学生 (N=450、長崎県)



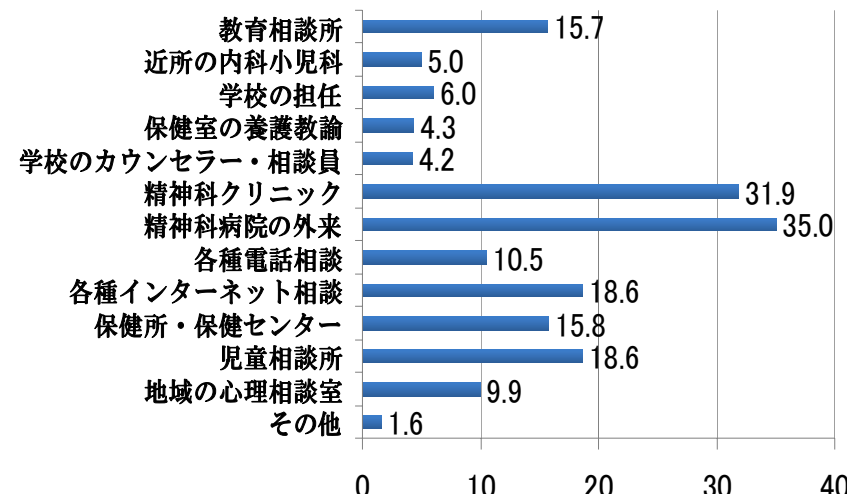
高校生 (N=9566、高知県)



大学生 (N=586、愛知県)

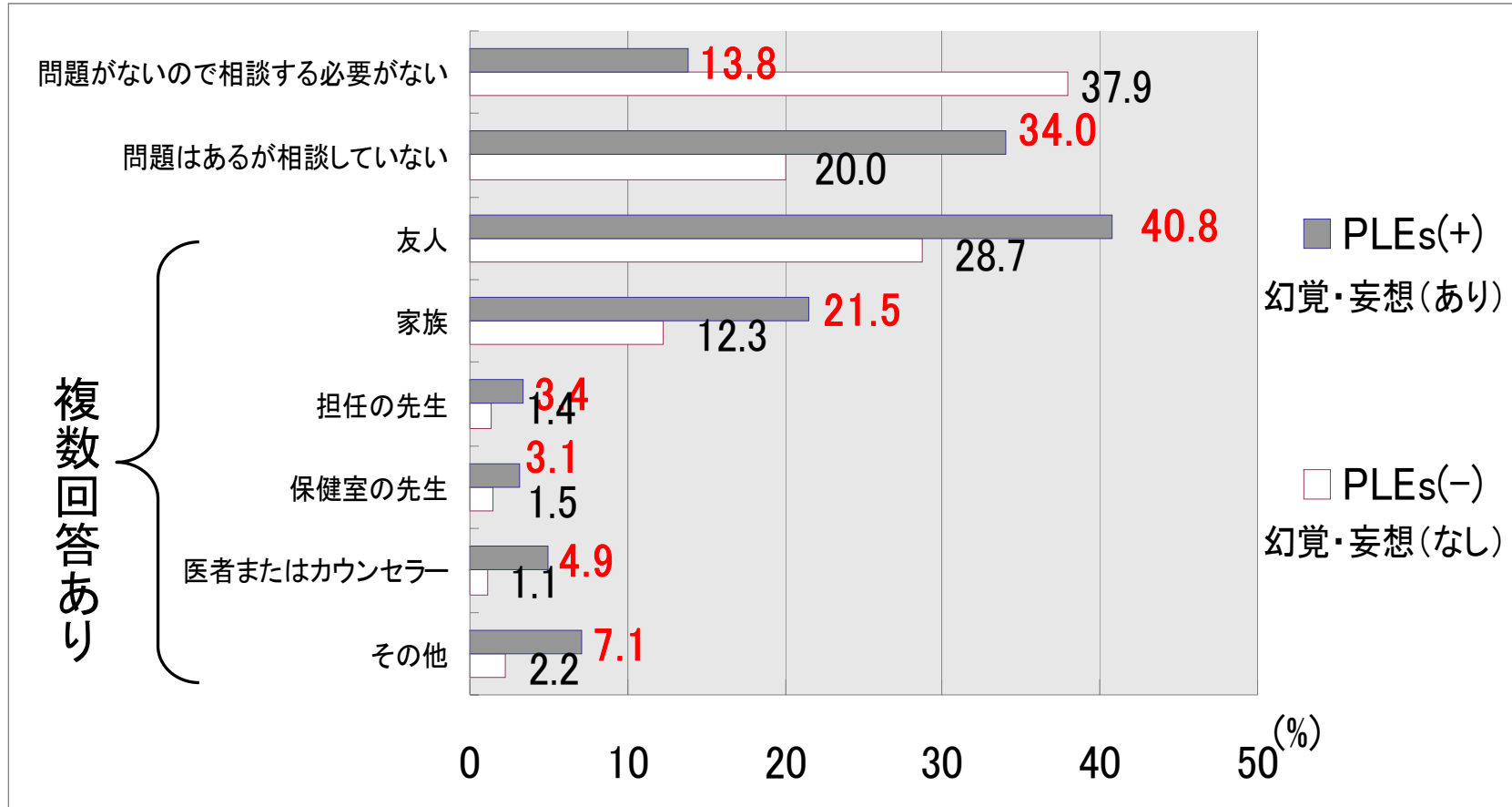


小・中学生保護者 (N=645、三重県)



高校生の相談先

過去6カ月間に苦痛感をともなう幻覚・妄想症状(PLEs)を複数回体験している若者(3.4%)
誰に相談・支援を求めているか?(高校生 N=9566)



平成20年度厚生労働科学研究こころの健康科学研究事業

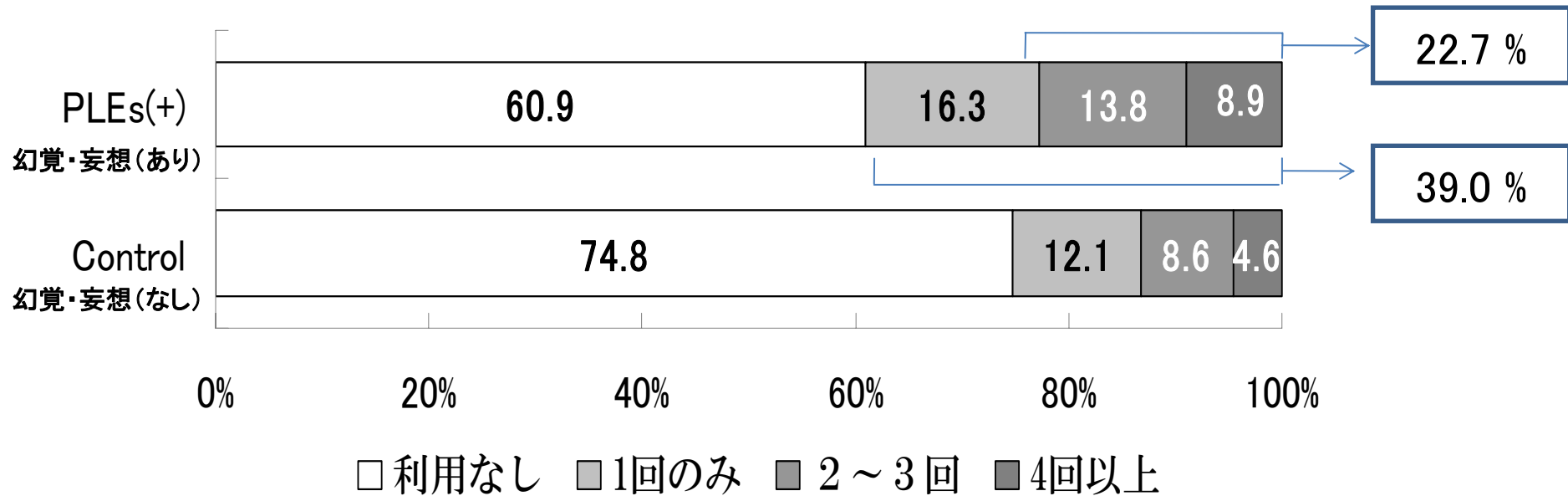
高知県における調査(2008年12月)

「思春期精神病理の疫学と早期介入方策に関する研究」(研究代表者:岡崎祐士)

研究分担者:西田淳志、研究協力者:下寺信次

高校生の保健室利用状況

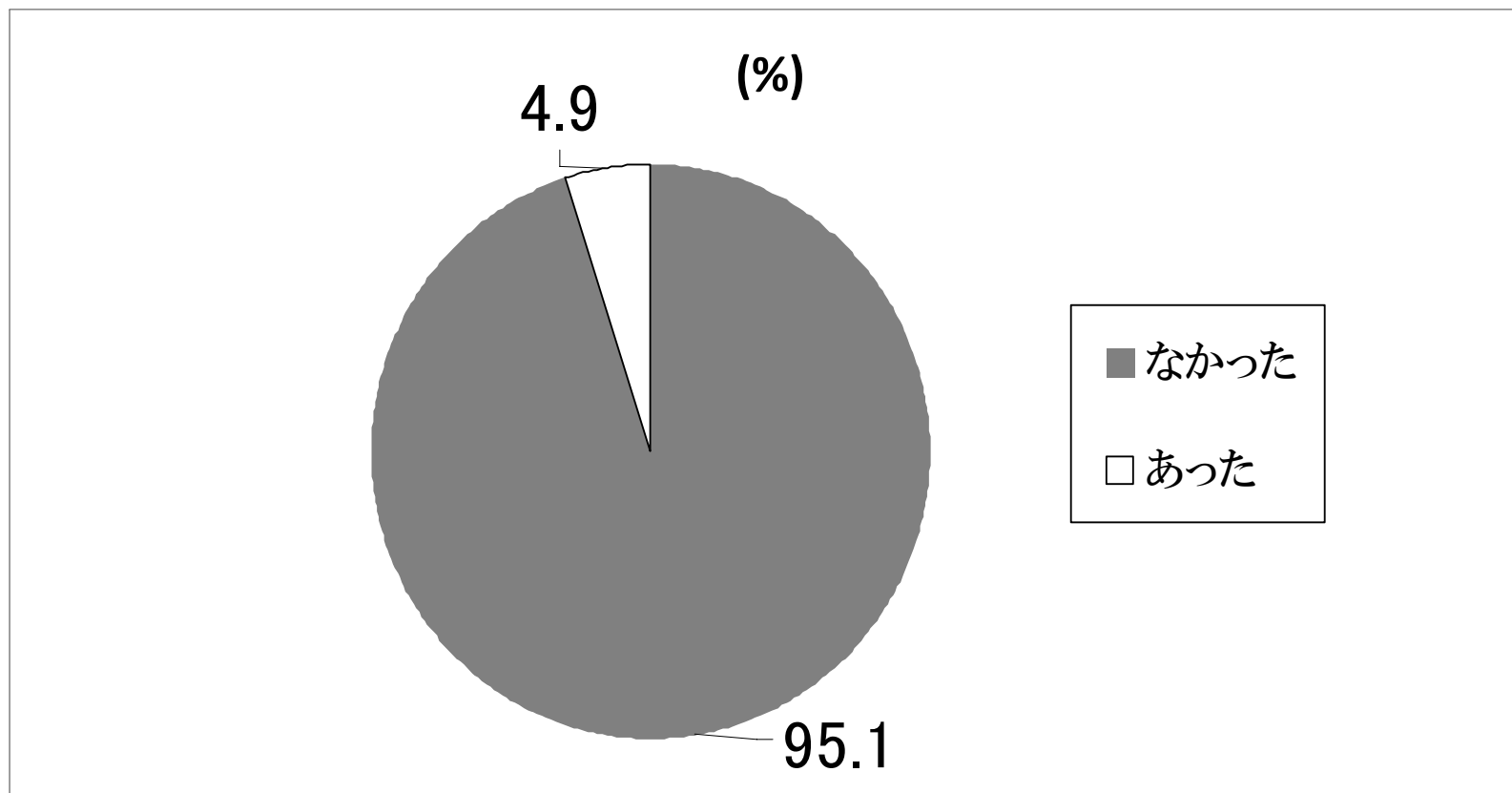
過去6ヵ月間に苦痛感をともなう幻覚・妄想症状(PLEs)を複数回体験している若者(3.4%)
 過去1ヵ月間の保健室の利用状況 (高校生N= 9511)



高知県における調査(2008年12月)

平成20年度厚生労働科学研究こころの健康科学研究事業
 「思春期精神病理の疫学と早期介入方策に関する研究」(研究代表者:岡崎祐士)
 研究分担者:西田淳志、研究協力者:下寺信次

ご家族が精神疾患を発病される以前に、
精神疾患について学ぶ機会がありましたか？
(患者家族調査)



平成20年度厚生労働科学研究こころの健康科学研究事業

「思春期精神病理の疫学と早期介入方策に関する研究」(研究代表者:岡崎祐士)

研究分担者:西田淳志、研究協力者:田上美千佳、新村順子、石倉習子

プレ調査(東京都)2009年3月

中間報告を踏まえた普及啓発の対象の考え方

- 若者の多くが、精神的不調を抱えた際、まず、「友人」、「家族」に相談すると回答している。また、実際に、精神病様症状を体験し、精神的不調を抱える若者の多くが「友人」、「家族」に相談をしている。
- このため、相談を受ける側の若者が適切な対応をし、早期支援に導けるよう若者を対象とした普及啓発を重点的に行うことが必要と考えられる。
- また、「家族」については、精神疾患について学ぶ機会が少ないことも示唆されており、家族が適切な対応をし、早期支援に導けるよう普及啓発を行うことが必要と考えられる。
- 保護者が若者の精神的不調に気づいた際、相談しやすい相談先としては、「担任」をはじめとし、「養護教諭」、「スクールカウンセラー」など学校関係者が上位にあげられている。また、「近所の内科・小児科」に相談する保護者も多い。
- このため、保護者を介して若者の精神的不調に関する相談が持ち込まれる可能性が高い学校関係者、近所の内科・小児科など一般医が、精神的不調を抱える若者やその保護者を適切な早期支援に導けるようにするための啓発と連携が必要と考えられる。

精神疾患に関するメディア報道状況調査

1. 調査目的

効果的な普及啓発の在り方の検討に当たっての基礎資料とするため精神疾患等に関するメディア報道状況を、糖尿病等他分野の疾患との比較も交え分析すること。

2. 調査方法

○調査対象メディア

全国紙:4紙 通信社:2社 地方紙:8紙

○記事検索方法

新聞記事の検索には、「うつ」「統合失調症」「精神障害」「精神科」の4つのキーワードを用いた。また、比較対象となる疾患として、「HIV/AIDS」「糖尿病」の2つのキーワードを用いて検索を行った(下表参照)。

○検索期間:平成11年3月～平成21年2月)

○抽出記事数:上記で挙げられた6つのキーワードそれぞれにつき、平成11年3月から平成21年2月までの過去10年分のデータ1,200件(各月10件)を無作為抽出した(合計で7,200件の新聞記事を抽出した)。

○分析方法:

各キーワードの分析にあたり、データマイニング(データの集合の中から知識を取り出す技術)を行った。キーワード毎の単語群を対象として、高頻度に発生する単語と単語の間を結ぶアイテムを抽出し、グラフとして視覚化した。

キーワード	同義語
うつ	うつ状態, うつ病, 抑うつ, 産後うつ, 抗うつ, うつ症状, うつ診断, 仮面うつ, 非定型うつ, うつ薬, 鬱状態, 鬱病, 抑鬱, 産後鬱, 抗鬱, 鬱症状, 鬱診断, 仮面鬱, 非定型鬱, 鬱薬
統合失調症	精神分裂病
精神障害	精神病, 精神疾患, メンタル, こころの病, 心の病
精神科	特になし
HIV/AIDS	エイズ
糖尿病	特になし